

平成22年春の活動報告

平成 22 年 7 月 29 日
チーム美らサンゴ

1. はじめに

チーム美らサンゴの活動は、企業、地域、都市住民が連携した新たな環境保全の方策として、多方面より多くの注目を集めています。私達は、平成 16 年より恩納村万座の海でサンゴの植え付けや勉強会、講習会、シンポジウムの開催、写真コンテストなどを通してサンゴ礁の再生を助ける活動をしています。

2. サンゴの植え付け活動内容

サンゴの植え付けは、恩納村漁協が平成 10 年より養殖しているサンゴを使用しています。活動は、植え付けの前に陸上施設でサンゴの観察と勉強会、植え付け方法の講習会を受けてから海中作業となります。



サンゴの観察と勉強会
サンゴに触って、実感します。



植え付け講習会
植え付けの手順があります。



ダイバーによる植え付け状況
しっかり固定します。



終了式の状況
元気に育て、サンゴ！

3. 平成 22 年春の植え付け活動状況

春の植え付けは、5月16日と6月13日の2回行い、ダイバー49名で98本、ノンダイバー76名で76本、合計で174本のサンゴを植付けました。また、去年の秋から今年の春までに地元グループで439本を植え付けたので、今期は合計で613本の植え付けとなりました。

表 1. 平成22年春の植え付け状況

対象者	参加者	本数	植え付け場所
ダイバー	49	98	トベラ岩手南、ビーチ栈橋前
ノンダイバー	76	76	トベラ岩手前
地元		439	
	125	613	

4. 植え付け場所

植え付け場所は、恩納村の万座ビーチ前のイノー(リーフ内の浅い海)で行っています。その中でもリーフ側の植え付け場、水路側、トベラ岩集への3箇所で行っていました。今年は、平成4年に万座ビーチが行った、周辺海域のサンゴ調査結果に基づき、当時、最もサンゴ被度が高いビーチ栈橋前にも植え付けを行いました。

万座ビーチ地先の植え付け場所

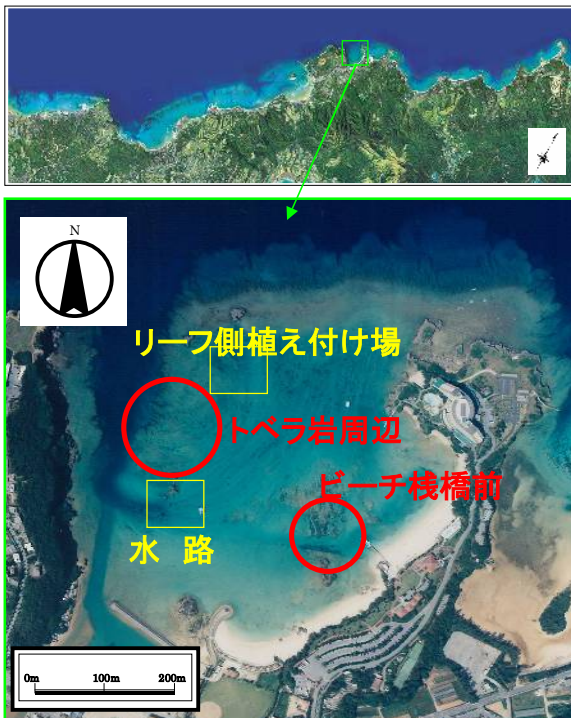


図 1. サンゴの植え付け場所

サンゴ被度とは、真上から見たとき、生きたサンゴがどれぐらい海底を覆っているかを面積割合(%)で示したものです。平成4年の調査結果では、ビーチ栈橋前が最も高い値となっています。

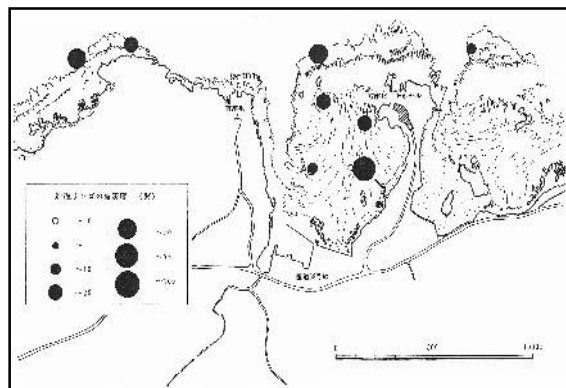


図 2. 平成4年サンゴ被度調査結果

5. 植え付け状況観察報告

① 植え付け規模の拡大

平成10年(1998年)には、世界各地のサンゴ礁でサンゴが白化し死滅する現象が起きています。沖縄諸島でも例外ではなく、白化現象で大きなダメージを受けました。その後、産卵できる母サンゴの減少により、沖縄諸島のサンゴは回復が遅れています。チーム美らサンゴは、サンゴの植え付けを通してサンゴの自然再生に取り組んでいます。植付けたサンゴは、平成18年まで順調に増加していましたが、平成19年と20年の白化現象により大きなダメージを受けました。そこで、植え付け本数を増やし早期にサンゴ群集を回復できるよう努めています。

表2. 活動への参加状況

年	参加者	ダイバー	ノンダイバー
平成16年(2004)	252	252	
平成17年(2005)	154	154	
平成18年(2006)	224	188	36
平成19年(2007)	379	285	94
平成20年(2008)	232	190	42
平成21年(2009)	159	95	64
計	1,400	1,164	236

② 植え付け場所ごとの状況

植え付けしたサンゴは、岩ごとに観察を行っています。しかし、岩の数が26箇所に及ぶと分かりにくくなったので、場所ごとに集計しました。前回の調査では、276群体が生存しており、その後613群体を植え付け、今回の調査では、649群体が生存しており、生存率は73%となりました。また、場所ごとの状況を見ると、リーフ側の場所での生存率が高くなっています。

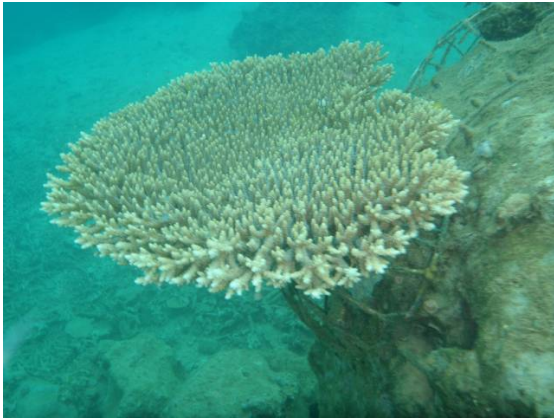
表3. 平成22年6月の状況

場 所	21.11.5	22年春 植え付け	22.6.23 調査		生存率
	生存		生存	死亡	
リーフ側	87	239	245	81	75%
トベラ岩南	136	78	153	61	71%
水路	53	129	107	75	59%
トベラ岩西		61	38	23	62%
トベラ岩手前		76	76		
ビーチ栈橋前		30	30		
計	276	613	649	240	73%

注1: 今年の春より、新たにビーチ栈橋前に植え付けを行いました。

注2: 春のノンダイバー分は、トベラ岩手前に植え付けを行いました。

③ 観察状況写真



水路(17年春植え)クシハダミドリシ



水路(17年春植え)トゲホソエダミドリシ
カゴを外しました。



リーフ側(20年春植え)Acropora suburata
カゴを外したが食害はありませんでした。



リーフ側(20年春植え)
右のキクハナガサミドリシは、
魚による食害を受けています。



リーフ側(20年秋植え)ヤッコミドリシ



リーフ側(20年秋植え)寄せ植えの状況



リーフ側(20年秋植え)寄せ植えの状況



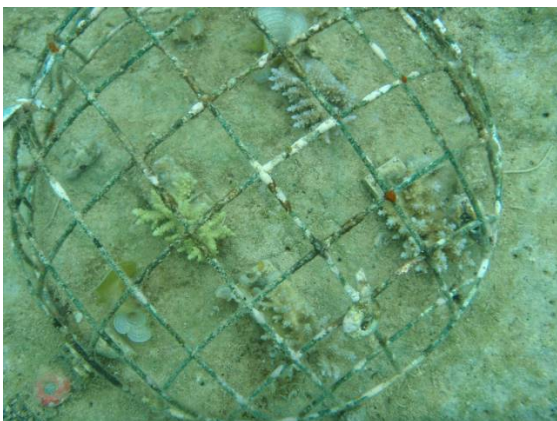
リーフ側(21年春植え)
タチハナガサミドリイシ
ヤッコミドリイシ



トベラ岩(21年春植え)



トベラ岩(21年春植え)



トベラ岩(21年秋植え)



トベラ岩(21年秋植え)

6. オニヒトデ駆除

恩納村におけるオニヒトデの動向は、北側海域で増加傾向にあります。オニヒトデ駆除は、定期的に行っており、万座のリーフ外側は多くなっていますが、リーフ内への進入を防いでいます。なお、駆除集計は、万座ビーチ北側の水路(ギナングチ)から万座毛までの約 50 ヘクタール分をまとめました。

除去日	隻数	除去合計	場所	除去数
3月13日	3隻	91匹	礁斜面	66匹
			礁斜面	25匹
			イノー	0匹
3月19日	4隻	66匹	礁斜面(潜水器)	26匹
			礁斜面(潜水器)	3匹
			礁斜面	23匹
			恩納グチ水路北	14匹
7月9日	2隻	3匹	イノー	3匹
			イノー	0匹
7月12日	1隻	12匹	恩納グチ水路南	12匹
7月21日	5隻	114匹	礁斜面	50匹
			礁斜面	28匹
			礁斜面	21匹
			礁斜面	15匹
			イノー	0匹
5日間	15隻	286匹		

7. 編集後記

平成 22 年は、ラニーニャ現象になっていると言われていています。南米のペルー沖の海水温が平年よりも高くなる現象を「エルニーニョ現象」と呼び、逆に、海水温が平年よりも低くなる現象を「ラニーニャ現象」と呼んでいます。平成10年(1998年)のラニーニャ現象時では、世界のサンゴ礁海域で高水温による白化現象が起きました。

今年は、台風の発生が少なく、7月13日に八重山諸島でサンゴの白化現象が見られたとのことです(沖縄タイムス ニュース「サンゴ白化確認 石西礁湖の小浜島北海域」より)ので、心配が募ります。白化現象は仕方が無いとしても、オニヒトデによる食害は防ぎたいと思います。